大阪大学経営協議会（令和２年度 第２回）議事要旨

日　時　令和２年９月１４日（月）１３時３０分～１６時００分

場　所　大阪大学吹田キャンパス本部事務機構棟４０１会議室
　　大阪大学東京オフィス（テレビ会議）

出席者　西尾総長（議長）
　　池上、井野瀬、大石、来島、鈴木、多田、塚本、津賀、土屋、出口、鳥井、中野、村尾、CASSIM、米田、金田、田中、三成、河原、尾上、中谷、工藤、奈良、小笠原、竹村、馬場口、土井、有川　各委員

議事に先立ち、西尾議長より会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

続いて、尾上委員より先般公表した本学における研究活動上の特定不正行為の調査結果について説明があった。

その後、西尾議長より、文部科学省が実施する「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」に本学が採択されたことの報告があった。

また、前回（６月１日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

議　　事

【議事】

１　監事の任命について

西尾議長から、配付資料に基づき、９月１日付で文部科学大臣から任命された本学の監事２名について報告及び紹介があった。

２　総長参与の指名について

西尾議長から、配付資料に基づき、８月２６日付で総長参与２名を再任で指名したことについて報告があった。

３　令和３年度予算概算要求について

金田委員から、配付資料に基づき、本学から文部科学省へ提出した令和３年度概算要求事項について報告があり、続けて中谷委員から、配付資料に基づき、令和２年度補正予算について報告があった。

４　役員の退職手当について

西尾議長から、配付資料に基づき、令和２年８月３１日で退任した監事の退職手当の算定時に総合的に勘案する業績勘案率について説明があり、審議の結果、これを承認した。

5　人材獲得にかかる方策等としての年次有給休暇付与ルール等の見直しについて

奈良委員から、配付資料に基づき、人材獲得にかかる方策等としての年次有給休暇付与ルール等の見直しについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

6　大阪公立大学の英語名称について

西尾議長から、配付資料に基づき、大阪公立大学の英語名称について説明があった。

7　前回のご意見に対する取組状況について

西尾議長から、配付資料に基づき、前回の本協議会で学外委員からいただいた意見や助言に対する取組状況について報告があった。

【意見交換】

1　OU マスタープラン及びコロナ新時代における本学の取組について

金田委員から、配付資料に基づき、本学の中長期的な行動指針である OU マスタープランについて説明があった後、続けて、西尾議長及び田中委員から、配付資料に基づき、コロナ新時代における本学の取組について説明があった。さらに各取組の詳細について尾上委員、金田委員及び奈良委員から説明があった後、学外委員から以下のような意見があった。

・コロナ禍において明らかになったのは、デジタルが社会を変える、ということである。逆にまだ明らかになっていないのは価値観である。価値観とは、これから作っていくべきものであり、「いのち」や「こころ」というキーワードが欠かせないものになると考えるので、このマスタープランは的を射たものとなっている。

・メディア授業等におけるリモートと、対面や近傍の接触では、両方に良さがあるため両立させるべきである。なお、視覚と聴覚の情報しか入ってこないリモートのコミュニケーションでは、信頼できる人間関係をいかに築くかという点が問題となるため、大阪大学の総力を結集して、対面時とリモート時の脳の使い方等を研究し、リモートにおいて不足する部分が解明されれば社会的にも役に立つ。また、バーチャル留学と従来型留学とのハイブリッドプログラムは、個人と家族、社会と個人などを繋いでいくとても良い提案だと考える。

・友人づくりや、議論をすることから新しいアイディア等様々なものが生まれてくるので、教育という意味では、大学において基本にすべきは対面授業だと考える。

・ひとまとめに「コロナの影響」といっても、直接的な影響、間接的な影響、全く関係ないものとがある。これらを仕分けし、いつまでに何をどこまで実施するのか考え、さらにコストから要求した予算がどれくらい充てられるのかを加味したうえで結果が出てくるので、一度ブレークダウンして取り組む必要がある。　（以　上）